

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

アニー・ライオン・ハウの
生涯と信仰 (2)
森田喜基

小論

親になる物語を支える
中山明代

礼拝のお話
津田之子



2025 NOV. 11

あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

聖書 口語訳聖書・ピリピ人への手紙4章4～6

パウロは気位の高い人で、いたずらに人から援助を受けることを潔しとしなかった。「価なしに福音を伝える」ということが彼の願いであり、誇りでもあった。しかし、フィリピの教会だけでは例外で、そこから援助を受けることを彼は拒まなかった。むしろそれは彼にとって喜びであり、励ましであった。深い愛の交わりが根底にあったからである。そのような愛の美しさ、愛の暖かさ、愛の働きを、私たちも模範とし、目標として努力したいと思う。

そのような教会も人間の集まりであったので、なお欠けるところがあった。何かトラブルがあったのである。何か対立があり、意思の齟齬があったのであろう。神の恵みに慣れて、自らを制することを忘れた。そして人間的なものがあらわになり、溝が深くなり広がった。パウロはキリストの謙遜にならって一つ思いになって欲しいと勧める。そして、「真実の協力者よ」と呼びかけて、仲介の労をとってほしいと訴える。対立したりしていいわけがない。そこからして、今月の聖書の言葉の力に満ちた勧めがあふれ出すのである。

生活が愛に満ち、その思いが寛容になるべきではないか。パウロは勧める「喜びなさい。繰り返して言うが喜びなさい」この喜びへの勧めはフィリピの信徒への手紙を貫く基調音と言える。

パウロの勧める喜びは、「にもかかわらず」喜ぶところの喜びである。思い煩うことがないから喜ぶのではない。思い煩いがあるにもかかわらず、喜ぶ喜びである。その喜びは自分の状態や所有に根ざす喜びではない。気分には左右されない喜びである。行き詰まりの中にあっても喜ぶような喜び、患難の中にあっても喜ぶような喜びである。キリストに根ざし、キリストに支えられている喜びである。それゆえに「あなたがたは主にあっていつもよろこびなさい」とパウロは言うのである。

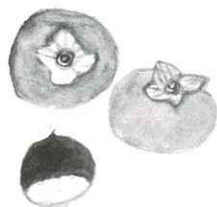
もし、私たちの生活に喜びが欠けているならば、それは神の恵みが欠けているためではない。私たちが与えられている恵みに気付かないためである。思い煩いを自分で解決しようとしてはならない。神にすべてをゆだねなければならない。

神の平安が私たちを取り巻いている。喜びにあふれて生きようではないか。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1974年「キリスト教保育」誌11月号より

キリスト教保育

第680号11月号



年主題

ともに

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 あたたかい空気のように 堀川真

〈論説〉 アニー・ライオン・ハウの

生涯と信仰(2) 森田喜基

絵本のとびら 阿部志保

〈小論〉 親になる物語を支える 中山明代

聖書にきく・お話 黒米理恵

【カリキュラム】

11月 月のねがい表

心にとめて 鈴木直江

実践報告 江戸川双葉幼稚園

実践からの学び 久保小枝子

心にとめて 半澤納帆

実践報告 めぐみ幼稚園

実践からの学び 菅原 創

20 16 15 6 4 3 2

39 34 32 31 26 24 23



〈連載〉 私たちのキリスト教保育 新本富子

〈連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 一色輝生

礼拝のお話 津田之子

風 菰田とみ子 編集子 加藤早恵

連盟だより

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり
松成真理子 菰田とみ子 表紙絵 田中横子

64 63 53 51 48 44 40